

審議会等の議事の要旨（要点）

（基本情報）

会議名称	第9回 立川市地域福祉推進委員会・第5次立川あいあいプラン 21 推進委員会 合同会議（オンライン開催）
開催日時	令和4年7月29日（金曜日）午前10時00分～12時15分
開催場所	オンライン会議、立川市総合福祉センター（2階 視聴覚室）
次第	1. 委員長あいさつ 2. 前回のふりかえり 3. 協働型地域福祉アンテナショップ設置要領制定について 4. 3つの重点取組の現況報告 5. 年間スケジュールについて 6. 意見交換「地域福祉活動における新型コロナの影響について」、 「それ（新型コロナ感染拡大の影響）を受けて見えた地域の生活 課題」、「今後に向けて求められること」 7. その他
配布資料	1. 第8回議事概要 2. 第9回議事次第 3. 立川市協働型地域福祉アンテナショップ設置要領 4. 令和4年度推進委員会計画（案）
出席者	[委員] 熊田博喜（委員長）、宮本直樹（副委員長）、石田芳朗、井村良英、 小野寺隆司、菅根浩子、高田利花、藤原紀子、野々久美子、 [事務局] <立川市> 小平真弓（地域福祉課長）、高橋知宏（地域福祉推進係長）、 石丸亮太（地域福祉推進係） <立川市社会福祉協議会> 山本繁樹（地域活動推進課長）、柳澤実（地域づくり係長）、 岡部由美、小林理哉、高橋美季、内金崎快（地域づくり係）
公開及び非公開	公開
傍聴者数	0人
会議結果	以下の通り
その他	以下の通り
担当	立川市 福祉保健部 地域福祉課 地域福祉推進係 電話 042-523-2111（代表）

主な意見、質疑応答

【1. 委員長あいさつ】

<委員長>

アメリカにいと日本のコロナウィルスの感染状況についての情報が入ってこないが、立川市地域福祉推進委員会・第5次立川あいあいプラン21推進委員会いずれも日本の状況を踏まえて考えていきたい。

日本に限らずアメリカも物価高騰が進んでおり、例えばコーラは日本円換算で300円程度になる。

【2. 前回のふりかえり】

<事務局（社協）>

- ・3つの重点推進事項は、ロジックツリーによる評価を行う。
- ・立川市協働型地域福祉アンテナショップ設置要領に記載されている、アンテナショップの表示方法について確認した。

特徴、雰囲気等に合わせて選択でき、開催頻度が多くないアンテナショップには、柔軟に対応する。営利活動の可否について、全面的に不可とするのではなく、営利が2次的なものであれば可とする。（ex. 野菜販売は、野菜販売と通じて人々の交流につながる可能性がある。）

【3. 協働型地域福祉アンテナショップ設置要領制定について】

<事務局（市）>

令和4年4月1日付けで制定した旨の報告があり、各条について解説した。

第7条の取り消し規定については、該当案件があった場合に直ちに取り消しとなるのではなく、市や社協からヒアリングを実施し総合的な判断により決定することとなる。営利活動、宗教活動などについて判断が難しい場合は、個別に検討を行うこととなる。

<委員長>

地域福祉アンテナショップ申請状況についての質問があった。

→令和4年7月29日現在、協働型地域福祉アンテナショップは3か所認定している旨を事務局より回答した。

【4. 3つの重点取組の現況報告】

<事務局（市）>

- ・相談支援包括化推進員

令和2年度・・・社協に1名配置

令和3年度・・・市高齢福祉課に1名配置

令和4年度・・・社協に2名、市地域福祉課に1名の合計3名配置、市地域福祉課にはアウトリーチ専門員2名配置

- ・地域福祉コーディネーター

令和4年度から6つの生活圏域に各2名ずつ、合計12名を配置し、その全員が生活支援コーディネーターを兼務している。

令和4年4月25日付け広報たちかわでも周知を行った。

<事務局（社協）>

・地域福祉アンテナショップ

（※令和4年7月29日時点で、全部型2か所、協働型3か所を認定している。）

① にこにこサロン（全部型）

・令和3年より本格的に始動しており、現在9団体が定期的に活動している。

（土日を除けば、ほぼ毎日いずれかの団体が活動している。）

・月1回運営協議会を開催し、にこにこサロンの活動内容や活動団体同士のつながり構築に向けた方法を検討している。

・毎月第1月曜日にフリーデイを開催している。（季節の催物、0円マーケット、ポッチャ等）毎回20名程度の参加していただいているが、顔ぶれが固定化してきているので、参加者の幅を広げるための周知方法等を検討していく。

② BASE☆298（全部型）

・場所は若葉町団地バス停前でとても立地に恵まれている。

・地域の憩いの場、近隣学生による作品の展示スペースとして機能している。

・100円の寄付の代わりにコーヒーなどのドリンクを提供している。

・月2回実行委員会を開催し、活動内容等について検討している。

<委員>

・徐々に支援者が増えてきて、ボランティアの方が店番を引き受けてくれることもあり、通常開放しないGWも開放することができた。

・近隣大学の学生さんも店番をする代わりに利用料なしで活動ができ、今後のいろいろなつながりに期待が持てる。

③ はねきんのいえ（※令和4年7月29日時点では地域福祉アンテナショップ候補地です。）

・はねきんネットの会により運営されている。

・令和3年11月の発会式の様子を紹介いただく。

・トワイライト事業、まちねっとカフェ、支えあいサロン等を定期的に開催している。

<委員>

・はねきんネットの家は施設も近く、トワイライトステイではスタッフを派遣している。

・潜在的な課題の拾い上げるため、子どもたちがゆるっと立ち寄れるような機能を果たしている。

④ ふじみ町みんなのおうち（協働型）

- ・協働型地域福祉アンテナショップ第1号でおうちびと（スタッフ）も喜んでいる。

- ・おうちびと（スタッフ）同士で活動内容を考え運営をしている。

- ・活動場所は滝ノ上会館。

- ・平均的に大人10人、子ども20人程度参加している。

- ・社協の行事保険、地域支えあい寄付金を活用して活動している。

- ・地域の人からのアドバイスなど、お互いに情報共有しながら活動できている。

<副委員長>

- ・外部からの支援として関わっている。

- ・BASE☆298で富士見町在住の方と偶々会って以降、人が人を呼びとんとん拍子で進んでいった。人のつながりを改めて実感できた。

⑤ 曙みんなのえんがわ（協働型）

- ・プラザシティ立川（UR）1階の集会所で月2回活動している。

- ・ゆるスポーツ（ボッチャ）、ミニトート作り、福祉作業所のミニ販売会、カードゲーム、ボードゲーム、麻雀を通じて参加者の交流を図る。

- ・8月には大塚製薬による熱中症対策講座を予定している。

⑥ にんじん立川地域交流スペース（協働型）

- ・活動場所は社会福祉法人にんじんの会 にんじん・立川。

- ・にんじん食堂がコロナ禍で活動を停止していた場所で開催したが、現状コロナウィルスの感染拡大に伴い、止む無く活動を停止している。

- ・今後は子育て世代の活動の場として、調理場があるので食を通じたつながりづくりを検討していく。

<委員長>

- ・地域福祉アンテナショップでつかんだ情報を地域福祉コーディネーターにつなげられるような仕組みができることを今後期待したい。

- ・全部型地域福祉アンテナショップはできるだけ開催できると相談を取りこぼさず、人々の交流につながるきっかけになるのではないかな。

<委員>

- ・アンテナショップに相談に来た人が、相談後安心して帰宅されたという事例の報告があった。

- ・地域の輪が広がっていくことを実感でき印象的だった。

<委員>

- ・地域福祉アンテナショップを通じて自分が持っている情報で誰かの役にも立つことができる。

<委員>

- ・協働型地域福祉アンテナショップは目的が明確化されており、関わることで何か

につながるのでは。と期待できる。

- ・ 1つの生活圏域に100か所くらいあっても良いのでは？
- ・ 毎日行く場所があることは大切。
- ・ 数をどう作っていくか？戦略的な検討が必要である。
- ・ 奈良県橿原市の取り組みを紹介いただく。

※「みらいチケット」(会計時に200円上乘せすることで、ほかの誰かがカレーを1杯食べることができる。)

https://www.minkyo.or.jp/program/nippon_no_chikara/266/

- ・ 新しく作ることも大切だが、既存のものを上手に活用することも大切である。
- ・ 研修の機会やまなびの場(関わり方などについて)も必要である。
- ・ 令和4年9月8日の子ども若者自立支援ネットワークについて紹介いただく。

<事務局(社協)>

・ 立川市は重層的支援体制整備事業を実施自治体であり、包括的支援体制の構築し、どんな世代の人も支えあうことができるような地域づくりを目指している。

<事務局(市)>

・ 重層的支援会議では、庁内の様々な分野の課長が参加し、支援の方法等を検討している。

<委員長>

- ・ 信用できる人と出会うために、どれだけそういった場を提供できるかがポイントになってくる。
- ・ (コロナウィルス感染症が落ち着いたら、)地域福祉アンテナショップの活動団体が一堂に会して、若者の巻き込み方等を議論、共有できると良い。

【5. 年間スケジュールについて】

<事務局(市)>

- ・ 令和4年度は、中間評価を実施予定。
- ・ 10月、12月、2月でまとめていきたい。
- ・ (コロナウィルス感染症が落ち着いたら、)部会で地域福祉アンテナショップの視察も検討していきたい。

【6. 意見交換】

<委員長>

- ・ 現計画策定時にはコロナウィルス感染症は拡大していなかったもので、評価についてはコロナウィルス感染症を含めずには考察することができない。
- ・ 次期計画を検討するにおいても、コロナウィルス感染症を含めないわけにはいかないだろう。

<委員>

- ・ オンライン活用が進んだことはよかった。

- ・高齢者を含め、今後のオンライン活用方法をどうするかが課題である。
- ・行政としてもオンライン化を進めてもらえると良い。
- ・学校では外出制限により、集団行動に慣れていない子がいるように思う。
- ・SNS では自分のペースで相談できることがメリット。
- ・大人のリスキリングがポイントになってくるかもしれない（若い世代はネット環境に柔軟に対応している。）

<委員>

- ・2年半施設での生活者の生活を守ることによって精一杯だった。
- ・できる限りアウトリーチで専門性を提供しているが、施設での生活者を守る対応に追われることが多く、なかなか進まない。

<委員>

- ・子ども若者への支援が不足しているように思う。
- ・（両親共働きで子どもが一人で遊ばなければいけないことがあるが、）iPad で子どもが遊び続けるのは発達に影響することもあるので注意が必要である。
- ・子どもの教育についても共有出来たら良い。
- ・集団行動の苦手な子が増えたようにも思う。
- ・こうした制限のある生活を乗り越えた子なら、これからものすごく可能性を秘めているかもしれない。
- ・コロナ禍により、ボランティアの案内が滞り、本来来るはずのボランティアに来てもらえず業務が集中したり、社会活動が停滞することで個々の健康が左右される恐れもある（健康の社会的決定要因）。
- ・子どもに対して、コロナウィルス感染症の影響は良悪ともある。
- ・日本語は複雑で難しいので、やさしくするための活動をしている。

<委員>

- ・当たり前できていたことができない喪失感が大きい。
- ・オンラインイベントが進んだ。
- ・オンライン参加できない人が取り残されないようにするにはどうするか。
→孤立しないように電話やFAX など個別に対応されているとのこと。
- ・ワクチンを受けたくても受けられない人がいる。一方で、ワクチン未接種であれば入店拒否など孤立を防ぎ、不安を取り除くためのサポートやアドバイスの検討が必要になってくる。

<委員>

- ・インターネットを使えない人はとても不安を抱えている。
- ・視覚障害を持つ人はヘルパーがいないと全く外出できないこともある。
- ・聴覚障害を持つ人、手話通訳者のオンライン参加への障壁がある。
- ・情報弱者に対するサポートの在り方は検討が必要である。

<委員>

- ・コロナ禍で、避難訓練、多摩川清掃、キッズルーム等が中止、閉鎖している。
 - ・在宅勤務が浸透し騒音問題が生じており、2件ほどは訴訟になっている。
 - ・エントランスの使用用途や機能の変化がみられる（子どもたちの遊び場や勉強スペース、高齢者が歩行訓練をし、談笑できる憩いの場となっている）。
- 良い方向に進めていくために検討を進めていく。

<委員>

- ・クラスターが発生するとその対応に追われ、大変になる。
- ・BASE☆298は緊急事態宣言が出ても身近な相談の場として開放予定。
- ・夏休みに子ども向けのイベントを企画中。

<副委員長>

- ・民生委員の選定について、情報が集まってこない（どの人がふさわしいなど）。
- ・地域がコロナ禍で止まっただけでなく、人材育成のバトンが途絶えてしまったような印象を受けている。
- ・オンライン化の波に乗り切れない人はどうするか。
→複数の情報伝達手段が必要である。（リアルとの使い分けなど）
- ・今後コロナ禍のような状況になっても地域が止まらないようにオンラインとリアルとの切り替えをスムーズに行えるようにすることが重要になってくる。
- ・ボランティアのつながりなど、人のつながりはまだ途切れていない。
- ・デメリットだけではないので、整理して今後に生かすことが重要になってくる。

【7. その他】

<委員>

- ・今年立川市外に引っ越しするが、委員は継続できるのか。

→<事務局（市）>

市文書法政課、企画政策課に確認。委員選定時は市民である必要があるが、その後の規定はない。ご本人に辞意がなければそのまま継続可能。

<委員>

- ・「バリアフルライフ（2020）」（YouTube）をご紹介いただいた。

<事務局（社協）>

- ・議事報告の際には欠席者のヒアリング内容についても共有する。
- ・地域福祉アンテナショップロゴ（案）の紹介があった。

<各委員からの情報提供（チャットより抜粋）>

① みらいチケット

https://www.minkyo.or.jp/program/nippon_no_chikara/266/

奈良県橿原市の取り組み。会計時に200円上乗せして支払いすることで、ほかの誰かがカレー1杯を無料で食べることができる

② オンライン開催のメリットを生かす取り組み

国分寺市では、市主催のイベントはリアル会場での開催に加え、YouTube ライブで申込者に対して限定配信＋後日録画配信をしている。昼間の時間に参加できない方やいろいろな事情で会場に行けない人も、後日配信で大切な学びを得られる

③ オンライン Web 会議(zoom や teams)で字幕を付ける方法

聴覚障害者への手話通訳が、通訳者にとって負担になっているというお話からいただいた情報提供

(1) zoom

<https://www.ailead.app/blog/zoom-meeting-subtitles>

(2) teams

https://www.illuminate-j.jp/blog/teams55_livecaption

④ 短編映画バリアフルライフ

国内複数の映画祭にて表彰歴あり

<https://www.youtube.com/watch?v=tIAkRnvEOU4>